

謝 辞

本日は、私たちのために、このような素晴らしい表彰式を用いていただきまして、誠に有難うございます。

私たちアスリートにとって、この「上月スポーツ賞」をいただけるということは、大変名誉なことだと思っています。

この場をお借りしまして、受賞者代表の挨拶と御礼とさせていただきます。

この表彰式の前に行われました「上月スポーツ選手支援事業」認定式を拝見させていただき、私も二〇〇八年 中学二年生の時に、初めて出席させていただいたことを思い出しました。

この時に、この支援事業は、将来オリンピック競技大会等で活躍できるような優れた素質のあるジュニア選手が、スポーツに打ち込める環境を整えるために支援をしているとお話をいただきました。

あの頃は、オリンピックは程遠いと思っていましたが、認定していただけでより頑張っているように心を決めていました。

全国大会や国際大会等に参加できるようになった時に、この支援が大変心強く感じられました。

また、二〇一一年度より東日本大震災の特別枠を設定していただきましたことを心より感謝申し上げます。

私ごとになりますが、「上月スポーツ賞」は、二〇一〇年、一二年、一三年と三回いただいております。

受賞の度に、この一年頑張ってきた、頑張ってきたてよかつたという思いと、世界との距離が少しずつ近づいてきたことを実感できました。

そして昨シーズン、まずはグランプリシリーズに出場しました。

十月のカナダ大会、十一月のフランス大会の二戦とも、世界王者であるパトリック・チャン選手に力の差を見せつけられました。

しかし、この二つの大会で素晴らしい選手と戦えたことによって、多くのことを学ぶことができました。

短期間ではありますが、学んだことを活かし、練習に集中して取り組み、十二月のオリンピックの前哨戦であるグランプリファイナルで、ようやくチャン選手に追いつくことができました。

二月のソチオリンピックでは、とにかく自分自身の演技に集中することだけを考えて臨みました。

三月の世界選手権では、金メダリストとして臨んだ初めての試合であり、精神的にも最も大変な試合でした。

しかし、どの大会でも自分を支えてくれるコーチ、トレーナー、家族、そして応援していただいた方々の力をいただき、何とか結果を出すことができたと思っています。

昨シーズンを通して、選手に必要なことは向上心、素直な心、そして感謝の心であることを改めて痛感しました。

スポーツはとても残酷だと思います。

一番努力した者が、必ず一番の結果を出せるものではありません。しかし、努力しなければ、結果は決して残すことはできません。

私たちは、最高の結果を出すために、感謝の気持ちを持ち続け、今後も日々精進していきたいと思っています。

今後ともご支援どうぞよろしく願っています。

本日は本当に有難うございました。

平成二十六年八月二十五日

受賞者代表 羽生結弦